谷 吉樹先生の逝去を悼んで

谷 吉樹先生が御逝去されました．謹んでご冥福をお祈りします．日本生物工学会第13代会長を務められた谷先生は応用微生物学の分野で先導的な研究を推進され，特にメタノール資化性酵母や微生物によるビタミン類の合成に関する研究でよく知られるところです．谷先生が学会長を務められた2001～2003年は，本会にとって創立80周年を迎える節目であり，それを記念して刊行された『日本生物工学会80年史』は本会のあゆみを振り返る貴重な資料となっています．私自身も学生時代に谷先生の講義を聞かせていただいたことに始まり，京都大学，奈良先端科学技術大学院大学，京都学園大学（現京都先端科学大学）に在職されていた間は，様々な共同研究でご指導をいただきました．いつも「頑張ってますか？」と気さくにお声をかけていただき，その優しいまなざしに沢山の励ましをいただいたことが心に残っています．学会長として谷先生が本会に残された偉業に改めて敬意を表し，感謝を申し上げるとともに，どうか安らかにお休みいただくよう心よりお祈りします．

（月桂冠株式会社 専務取締役 製造本部長/日本生物工学会第24代会長　秦　洋二）

本学名誉教授の谷　吉樹先生は，1992年4月バイオサイエンス研究科教授に着任され，2006年3月にご定年退職されるまで応用微生物学分野で国際的に優れた業績を多数挙げられました．その間，副学長をはじめ研究科長や評議員などの役職を務められるとともに，研究室対抗ソフトボール大会（谷杯）でもご活躍され，本学の発展に多大な貢献をされました．僭越ながら本学を代表し，謹んでご冥福をお祈り申し上げます．個人的には，本学に着任後（2006年4月），谷先生の研究室および研究分野を引き継がせていただきましたが，教授室で先生が大切に使われた格調高い木目のデスクとキャビネット内の膨大な修士・博士論文，原著論文や総説の別刷りを見た時，先生の後任として研究室を主宰することに身震いするほどの重責を感じました．その後17年の歳月が過ぎ，昨年3月には自らの定年で先生から引き継いだ研究室を閉じましたが，教授室を整理している時，着任後も色々とご相談したことを思い出しました．改めて心より感謝申し上げます．先生にはもうお会いできませんが，これまでに仕事でお会いした多くの修了生の方々は様々な分野で活躍されており，先生のご指導の賜物と存じます．天国でもその温厚な眼差しと笑顔で，修了生のキャリアパスを見守ってください．

（奈良先端科学技術大学院大学 研究推進機構 特任教授　髙木博史）

最終講義（2006年3月）にて

谷 吉樹先生は，私が京大農芸化学科2回生の時に微生物生理学の講義を受けたのが最初である．その後，卒業論文，修士，博士，そして助教にして頂いた後，1992年に奈良先端大に異動された．緒方浩一先生の下で始められたC1微生物研究は世界をリードされ，現在もGordon conferenceとして続くC1微生物に関する国際シンポジウムにも日本を代表して貢献された．奈良先端大に異動される時にC1の仕事は京都に置いていくからとおっしゃられ，その後，加藤暢夫先生，その後，私が引き継いだことになった．谷先生は生来，京都・上賀茂にお住まいで，自転車で，四季の変化を楽しみながら，御園橋から賀茂川沿いに，半木の道を経て出雲路橋に至る道を，春には桜吹雪の中を30–40分かけて京大まで通勤されていた．花や自然にも詳しく，穏やかで優しく学生目線にたって相談にのっていただき，大きな視点でアドバイスを頂いた．

一方，研究室の飲み会では（終電がないので）深夜2時，3時まで飲み明かし，そこでの先生の言葉から，先生の本音，哲学をお聞きすることができた．研究室対抗のソフトボール大会は京大を退職するまで現役としてピッチャーとして参加され，京大最後の大会でも優勝できた．谷先生が命名されたソフトボールチームの名はもちろん“Ethylotroph”である．

心より先生のご冥福をお祈りいたします．どうもありがとうございました．

（京都大学農学研究科 応用生命科学専攻 制御発酵学分野 教授　阪井康能）

谷 吉樹先生が亡くなられた…その一報からすぐに奈良先端大細胞機能学講座の同窓生に連絡しますと，すぐに多くの返事を頂きました．そのほとんどが「あの笑顔が忘れられません」との言葉でした．そうです，あの笑顔に時に励まされ，時に翻弄され…私は先生のもとで学ぶために京大制御発酵学研究室に入りましたのに，1年で後はよろしくと奈良先端大へ異動され，学位はまだ取れそうになかったのに奈良に来なさいと．そこで驚愕したのが，新しく研究室を立ち上げようと言うのに，学生に与えたのは1つを除いて全て新しい微生物を探す研究テーマでした．「京大時代の菌は全て置いてきた，ここで新しいのを探そう」そう笑顔で仰いました．1つを除いて―それはビタミンB_6生合成経路に関する研究，谷先生の博士論文の続きとなるもので，古きものと新しきもの―先生の思い入れを感じました．

奈良先端大でも最後のソフトボール大会で優勝した時，研究室旅行で誰よりも上手くうどんを打たれた時，飲み会で学生と談笑されている時，本当にあの笑顔が忘れられません．

先生は遺伝子を切ったり貼ったり眺めたりするだけの研究はお嫌いでした．でも，先生の遺伝子は私共がしっかりと受け継いでおり，私の研究室では今日も学生が微生物を単離しています．心より先生のご冥福をお祈りいたします．

（静岡大学工学部 化学バイオ工学科 准教授　吉田信行）

ソフトボール大会にて（京大時代）

研究室旅行にて（奈良先端大時代）